

『平成 30 年度第 1 回たまねぎ生産流通研究会検討会及び第 1 回農業総合センター園芸研究所主要課題現地検討会』の開催

- ・平成 30 年 5 月 8 日（火），園芸研究所において産地振興課との共催で標記検討会を開催した（出席者：生産者，農機及び種苗メーカー，全農茨城，JA，普及・行政等 74 名）。
- ・加工業務用たまねぎの需要動向，県内各地域の取り組み状況・生産上の課題，本県版栽培暦や経営指標等の作成（技術体系化チーム）等について協議・情報交換を行った。
- ・園芸研究所から「研究課題：たまねぎ機械化一貫体系による省力・多収化技術の確立」について進捗状況を紹介した。

○加工業務用たまねぎの需要動向（全農県本部）

- ・タマネギの生産量は全国的に増加傾向。端境期の 6～8 月の増産が求められている。
- ・佐賀産（全国 2 位）は減少傾向。しかし，ベト病が少なく単価が高い早出しは増えている。

○県内各地域の取組状況と生産上の課題（産地振興課）

- ・H30 年たまねぎ生産流通研究会の状況→右表。
- ・各産地からは，昨秋以降の天候不順による生育不良，除草対策（登録薬剤が少ない等），作業の機械化等の課題が挙げられた。

たまねぎ生産流通研究会の生産状況

項目	H29産	H30産
生産者数(戸)	103	117
栽培面積(ha)	24.6	37.6
出荷量(t)	1,365	(2,046)
うち加工用(%)	52.5	(76.9)

H30産の出荷量は見込み

○研究課題の検討（園芸研究所）

- ・平成 29 年度結果：本県の 7 月収穫ための播種晩限は 2 月上旬。有望品種は「七宝甘 70」「もみじ 3 号」「マルソー」
- ・平成 30 年度状況：春まき夏どり作型の栽培試験の紹介（品種，播種時期，施肥法）
※主な質問 春まきでの地床育苗（→温度が取れないので厳しい），8 月収穫（→難しい）
448 穴セルトレイ育苗（→現状 228 穴 今後検討）

○今後の予定 産地における現地検討会（時期未定），園研または農研での検討会（1～2 月）



室内検討



夏どりたまねぎ研究圃場での検討